

審議等の概要（主な発言要旨）

●案件（1）について

- ・チャレンジプロジェクト3「持続可能な市民農園の運営支援&新規開設支援プロジェクト」について、
市民農園の閉園理由はこういったものが多いか？⇒ 相続のタイミングで閉園することが多い。
市民農園を増やす工夫は？⇒ 開設費用助成金交付要綱を整備。開園することのメリットを説明。オーナー連絡会を開いて、オーナーからの意見を聞き、増えない理由を検証する。（予定）
- ・相続を機に閉園することが多いとあるが、相続は事業継承のタイミングであり、同時にメリットを打ち出すチャンスでもあるという視点を持って。

- ・1-1(1) 農地保全に向けた農地所有者への情報提供について
市役所で勉強会を開かれたことはあるが、農協などで地域単位で行ってはどうか。
- ・3-2（3）田植え・稲刈り、さつまいも栽培等の農業体験の推進について
豊島西小学校の取組は非常に良い。どれぐらいの広さの農地で行ったか？⇒
1反弱の農地。
こういうところに載せられていない取り組みが他にもある。⇒ 農業体験協力助成金の要綱を整備し、来年度以降はさらに活発化させたい。

●案件（2）について

農業施設等の導入支援事業補助について

- ・補助金を受けられる対象は？⇒ 市内の農業者、農業者が組織する団体。個人でも受けられる。

防災協力農地登録制度について

- ・資料4の今後のスケジュールどおりすすめるのか？ ⇒ 当初の計画なので、リスケジュールが必要。
- ・国の補助金交付額は？⇒111万円で交付決定している。
- ・井戸を掘るとなると結構金額がかかるのでは。⇒ 人数を絞って、まずは井戸を掘れるか現地調査を行う。
- ・登録制度はもともとあったのか？ ⇒ 一般的な制度はあったが、豊中市としてはこれから要綱を整備して正式な登録制度を進める予定。
どういう風に伝えるのか？⇒ まずは農地所有者へ制度の周知と意向調査を行い、要綱

を整備して正式に登録をしていただき、その後は広報やHP、チラシ（地図）などで地域住民へ周知していく。

- ・登録者へのメリットがないのが難しい一面でもある。

市内に農地を残す意義を市民に示す目的がある。

チャレンジプロジェクト1 「新規就農希望者等の育成&農地のマッチング」の仕組みづくりプロジェクト 「農業塾」「農地マッチング」について

- ・塾卒業後は農地マッチングにつなげるのか？ ⇒ 新規就農者を増やすことが目的。並行して農地マッチングにつなげる仕組みづくりを進めていく。
- ・農業塾を卒業していない人にマッチングするにはどのような要件が課されるのか。⇒ 従前のマッチングの仕組みに、新たな事業が加わったというイメージ。（要件は従前どおり）
- ・塾生5名の解釈は？ ⇒ 1組=1名と考えてよいとしている。途中で辞める人が出た場合、早い段階ならば追加募集も考えている。
- ・12月開始は時期が早いのでは？ ⇒ 土づくりから始めて、次年度も作物を植える等引き続き次のステップに進む予定。（予算要求中）
- ・円滑化法があまり進んでいないという課題がある。全国的にも生産緑地の1%である。8から9割は使用貸借でお金をとっていない。貸し手は途中で辞めやすいが、借り手側にとっては不利。また農地を守るという意味でも目的から外れている。どのように周知していくのが課題。
- ・「農地バンク」とは？ 活用しているのか？ ⇒ 中間管理機構の略称が「農地バンク」が一般的だが、いろいろなところで使われており、それぞれのところでオリジナルの呼称になっているものもある。
中間管理機構の「農地バンク」は市街化区域の農地は対象外。豊中市は独自のマッチングの仕組みを構築する取組をすすめているところ。
- ・マッチングの情報収集はどういう手段で行う予定か？ 一元化は難しい。どこの市町も持つ悩みである。⇒ 貸し手については、意向調査や農地調査でターゲットを絞って個別にアプローチする。借り手に関しても個別に聞くが、農業塾の卒業生などを候補とする。
- ・マッチング1対1ではなく、借り手にも幅を持たすことはできないか。借り手のニーズとして、遊び感覚で市民農園よりもう少し大きい土地でやりたいというのはわりとあると思う。⇒ 円滑化法を使えば土地の一部を複数に貸すことはできる。

チャレンジプロジェクト4 「新しいコミュニティ農園」のモデルづくりプロジェクトについて

- ・実施内容の補足 実施場所が府の公園内ということで、いつ誰でも入れる場所ではない等

の制約があり大変だった。

今後は規模を拡大し、歳入も得られる仕組みを作って持続可能なものにしていくことが課題。

・課題の自立安定化とは？ ⇒ 継続してやっていくためには、月1回、間々の管理、バックヤードの管理等の問題がある。府の制約がない別の場所でやることも考慮に入れていかなければならない。

・コミュニティ農園の事業目的がぼやけてしまっているのでは。

モデルづくり → モデルを確定 → どういうモデルなのかを見極めて役割を決めることが重要。例えば補助をして運営していく団体を発掘するなど。